

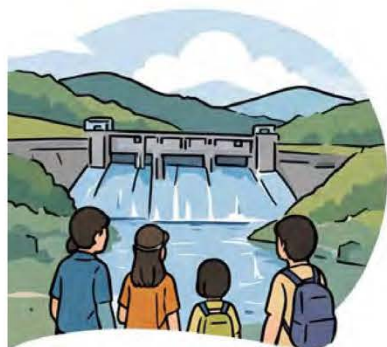
NIPPON 防災 資産



災害を知る



災害に備える



第2回認定
令和7年12月22日

災害の教訓を未来へ

災害伝承に関する良質な施設や活動の普及・拡大

伝えよう

いのちをまもるために

災害リスクを自分事化し、地域で語りついでいく社会



火山噴火



地震



“まさか自分が” を減らしていく

昨今、気候変動の影響により水災害が激甚化・頻発化しています。そして、大地の変動帯に位置する日本は、地震、津波、火山噴火などによる災害がいつ起こるかわかりません。私たちの暮らしには、必ずどこかに災害の危険が潜んでいるわけですが、普段、それを具体的にイメージすることは難しいと言われています。すると、災害が起きてから、「まさか自分が、災害の被害にあうなんて」と後悔することになるかもしれません。命を失ってしまったのは、後悔することすらできません。「まさか自分が」と思わなくて済むよう、災害リスクを自分の事として捉える、「自分事化」がとても重要となってきました。

地域で語りついでいく、 備えていく

そこで注目されるのが、「伝承」です。地域で起きた災害の記憶を、人から人へ、次の世代へと語り継いでいく、伝えていく。語り部の話で、体験館のような施設で、地域のお祭りや活動の中で、公園や伝承碑など様々な工夫・仕掛けで災害のことを人々に伝え、備えを促し、実際に行動していく。過去に起きた大きな災害でも、伝承が災害への備えに大きな役割を果たし、それが、実際に人々の命を救った事例も見られます。そこで、「地域で発生した災害の状況をわかりやすく伝える施設」や「災害の教訓を伝承する語り部」といった活動に社会の注目が集まるよう認定制度を令和6年5月に創設しました。それが、「NIPPON防災資産」です。人々が伝え合うことを大切にすると、それが災害リスクの自分事化を促し、激しくなる気候変動や大災害から命を守ることに繋がって欲しい、そのような願いがこの制度には込められています。



“自分事化”を進め防災力を高める

災害から命を守り、被害を最小化するためには、一人一人が災害リスクを「自分事」と捉え、主体的な避難行動や防災行動をとることが重要です。こうした観点から、内閣府と国土交通省は、「地域で発生した災害の状況をわかりやすく伝える施設」や「災害の教訓を伝承する語り部といった活動」などを、「NIPPON防災資産」として認定する制度を令和6年5月に創設しました。この制度を通じて、資産のある地域の人々の災害リスクの自分事化が進むことをはじめ、災害伝承に取り組む人々の工夫や努力が国内外に伝わり波及効果を生み出すことや、社会全体の災害に対する意識が高まることを期待しています。



認定対象(例)

狙い こんなことに取り組んでいます



教訓が得られ深化・継続する工夫を評価

施設や活動をNIPPON防災資産として認定する際のポイントとしては、まず、事実関係が正確に伝えられているかといった、災害に関する基本的な情報が含まれているかどうか挙げられます。そのうえで、人々が行動をおこす動機づけに繋がる内容が含まれているか、また、そこにいわゆる学びが、教訓が含まれ、災害に対する備えに繋がるかがポイントとなります。さらには、普段の暮らしの中で、防災に結びつく仕掛けや工夫など、深い学びや行動に結びつく手がかりがあるかどうかを評価項目としています。

本認定制度の名称を、「遺産」ではなく「資産」としているのは、それぞれの活動が過去のものではなく、現在、そして未来において、価値を発揮し続けるものであってほしいという願いからで、取組の継続、発展によって、「資産」の価値がさらに高まることを期待しています。



優良認定と認定に区分

NIPPON防災資産の認定は、全国の流域治水協議会や火山防災協議会等により推薦される候補案件を対象としています（いわゆる他薦の制度です）。その中で、災害リスクを自分事化するという観点において、主体的な避難行動や防災行動につながる工夫、仕掛け等が特に優れているものを優良認定としています。



認定区分

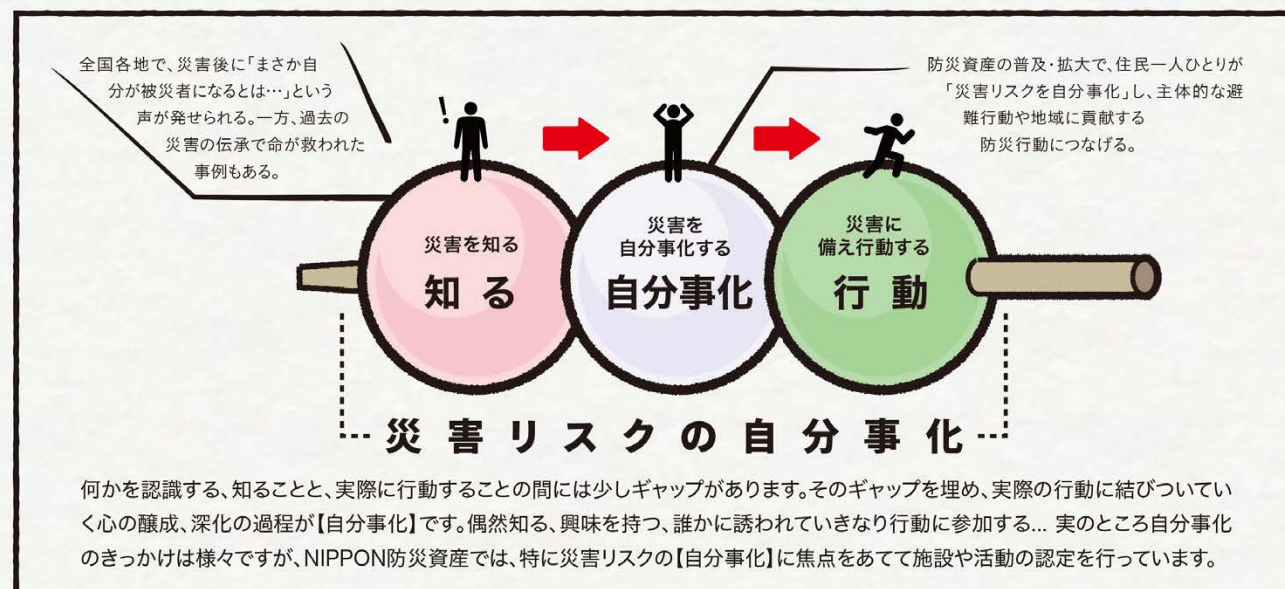
内閣府特命担当大臣・国土交通大臣が認定

全国の流域治水協議会等を通じて抽出された防災資産の候補案件を対象に、有識者による選定委員会での審議を経て、内閣府特命担当大臣（防災）及び国土交通大臣が「優良認定」「認定」案件を認定します。優良認定・認定ともに一定の有効期間を設け、活動等が引き続き良質なものであるかの確認等を行った上で、有効期間を更新することにしています。

NIPPON防災資産としての認定を受けると、施設や活動における名称の使用や、ロゴマークの使用が可能になります。また、地域メディアからの注目度が高まることや、行政機関からの情報提供、認定対象者の交流機会の提供などの機会の増加が想定されます。総じて、施設や取組がブランド化され、地域が活性化していくことを期待しています。



第2回NIPPON防災資産認定式

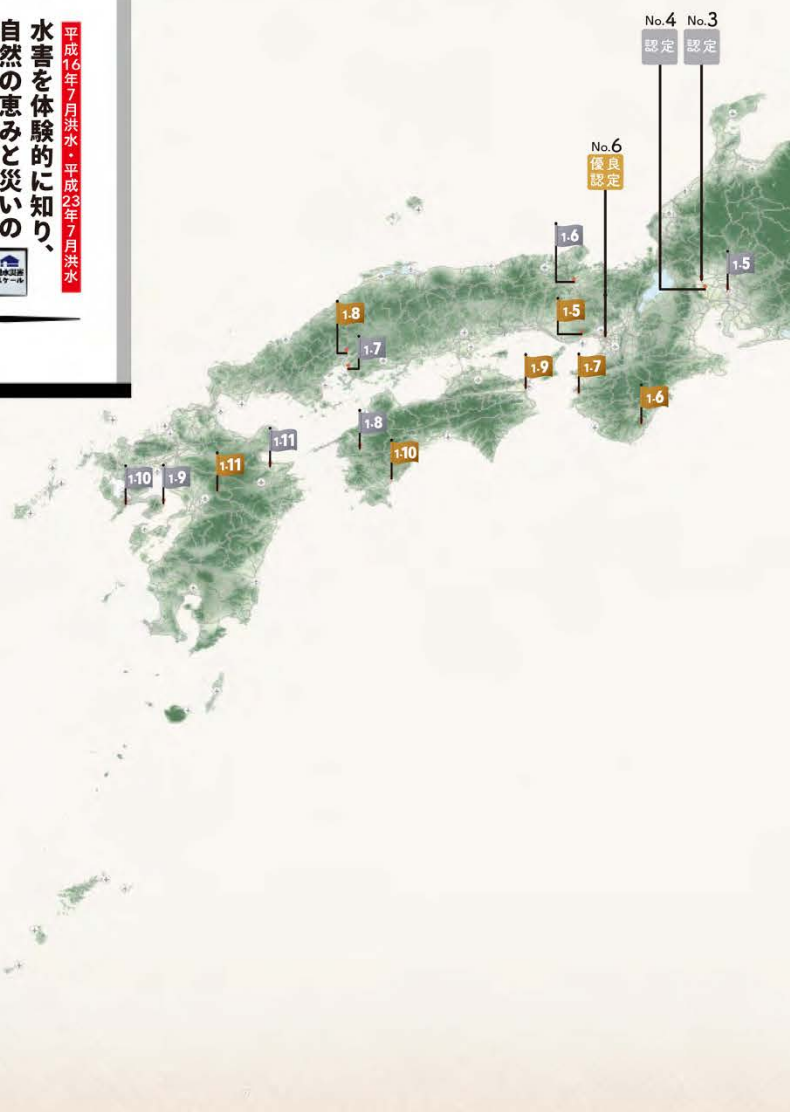


第2回
認定

令和7年
12月22日

認定案件

NIPPON防災資産



各認定案件が対象としている災害



火山



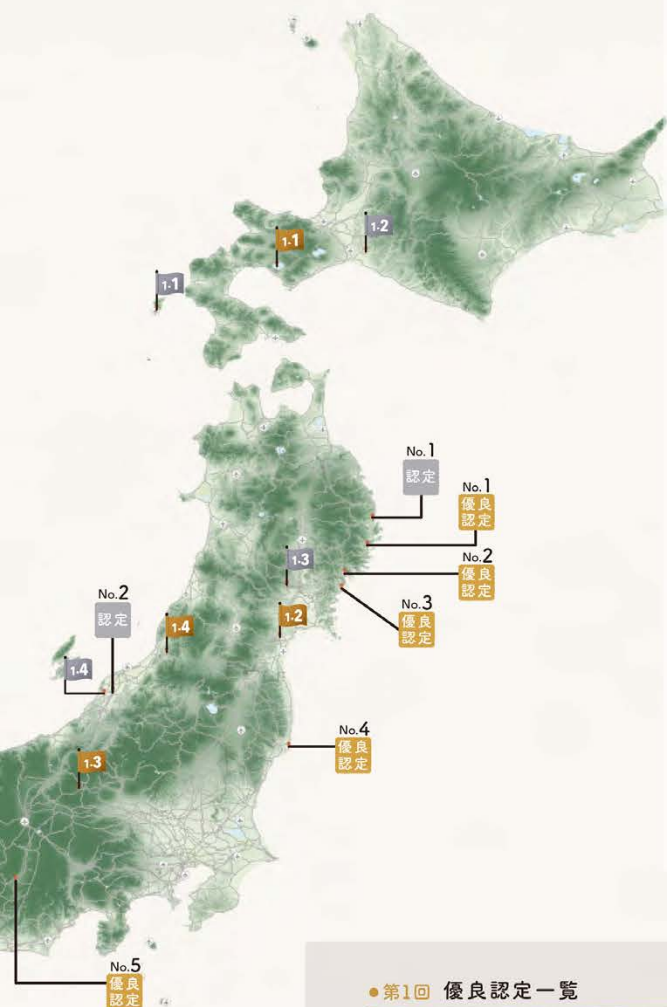
地震



水害・土砂災害



津波・高潮



優良認定

優良認定一覧（アクセス等関連情報リンク）

No. 1 いのちをつなぐ未来館における震災伝承活動

東日本大震災 | 岩手県 釜石市 |



No. 2 東日本大震災津波伝承館

東日本大震災 | 岩手県 |



No. 3 気仙沼市東日本大震災遺構・伝承館

東日本大震災 | 宮城県 気仙沼市 |



No. 4 いわき震災伝承みらい館

東日本大震災 | 福島県 いわき市 |



No. 5 天竜川総合学習館「かわらんべ」

昭和36年6月洪水 | 長野県 飯田市 |



No. 6 津波・高潮ステーション

室戸台風等の高潮、将来発生が想定される南海トラフ地震による津波 | 大阪府 大阪市 |



認定

認定一覧（アクセス等関連情報リンク）

No. 1 学ぶ防災

東日本大震災 | 岩手県 宮古市 |



No. 2 三条市水防学習館

平成16年7月洪水・平成23年7月洪水 | 新潟県 三条市 |



No. 3 大垣市輪中館及び大垣市輪中生活館

大垣市における水害全般 | 岐阜県 大垣市 |



No. 4 木曽三川輪中ミュージアム

海津市における水害全般 | 岐阜県 海津市 |



第1回認定分（令和6年9月5日）

●第1回 優良認定一覧

- No. 1 洞爺湖有珠火山マイスター
| 有珠山噴火災害 | 北海道 伊達市・豊浦町・壮瞥町・洞爺湖町 |
- No. 2 3.11伝承ロード
| 東日本大震災 | 青森県・岩手県・宮城県・福島県 |
- No. 3 儒恋村・天明三年浅間山噴火災害語り継ぎ活動
| 天明3年浅間山噴火災害 | 群馬県 儒恋村 |
- No. 4 えちごせきかわ大したもん蛇まつり
| 昭和42年8月 羽越水害 | 新潟県 関川村 |
- No. 5 阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター
| 阪神・淡路大震災 | 兵庫県 神戸市 |
- No. 6 和歌山県土砂災害啓発センター
| 平成23年紀伊半島大水害 | 和歌山県 那智勝浦町 |
- No. 7 稲むらの火の館
| 安政南海地震 | 和歌山県 広川町 |
- No. 8 広島市豪雨災害伝承館
| 平成26年8月豪雨 | 広島県 広島市 |
- No. 9 四国防災八十八話マップ
| 四国における全ての災害 | 徳島県・香川県・愛媛県・高知県 |
- No. 10 黒潮町の防災ツーリズム
| 南海トラフ地震による津波災害（想定） | 高知県 黒潮町 |
- No. 11 熊本地震 記憶の廻廊
| 平成28年熊本地震 | 熊本県 |

●第1回 認定一覧

- No. 1 奥尻島津波館及び奥尻島津波語り部隊
| 平成5年北海道南西沖地震 | 北海道 奥尻町 |
- No. 2 厚真町震災学習プログラム
| 平成30年北海道胆振東部地震 | 北海道 厚真町 |
- No. 3 栗駒山麓ジオパーク
| 平成20年岩手・宮城内陸地震 | 宮城県 栗原市 |
- No. 4 信濃川大河津資料館を拠点とした地域活性化の取組
| 信濃川における水害全般 | 新潟県 燕市 |
- No. 5 土岐川・庄内川 流域治水ポータルサイト
| 土岐川・庄内川における水害全般 | 愛知県 名古屋市中 |
- No. 6 福知山市治水記念館
| 昭和28年9月台風第13号等 | 京都府 福知山市 |
- No. 7 坂町自然災害伝承公園
| 明治40年、平成30年7月豪雨 | 広島県 坂町 |
- No. 8 乙亥会館災害伝承展示室
| 平成30年7月豪雨 | 愛媛県 西予市 |
- No. 9 雲仙岳災害記念館
| 雲仙・普賢岳噴火災害 | 長崎県 島原市 |
- No. 10 念仏講まんじゅう配り
| 万延元年（1860年）土砂災害 | 長崎県 長崎市 |
- No. 11 大分県災害データアーカイブ及びフィールドツアー
| 大分県における全ての災害 | 大分県 大分市 |

第1回
認定
令和6年
9月5日

認定案件紹介

—特徴ある様々な取組(例)—

災害の教訓を 未来へ

調べる、
考える



大分県災害データアーカイブ及びフィールドツアー

「大分県における全ての災害」大分県大分市

熊本地震(2016年)、九州北部豪雨(2014・2017年)など、大規模災害の多発を契機として制作したデジタルコンテンツ。過去約1300年間、5600件以上の災害情報を閲覧でき、フィールドツアーに活用されている。(大分大学減災・復興デザイン教育研究センター)

資産がつながる



出典:「3.11伝承ロード推進機構」公式HP

3.11伝承ロード

「東日本大震災」青森県・岩手県・宮城県・福島県

東日本大震災の被災地に多くある、被災の実情や教訓を学ぶための遺構や展示施設をネットワーク化し、防災に関する「学び」や「備え」を推進。東北の災害を克服した歴史と文化もあわせて訴求している。(一般財団法人3.11伝承ロード推進機構震災伝承ネットワーク協議会)

3.11
DENSHO
ROAD

“祭り”でつながる、語り継ぐ



えちごせきかわ大したもん蛇まつり

「昭和42年8月 羽越水害」新潟県関川村

村の大蛇伝説もとにした祭り。羽越水害(1967年8月)の教訓を次世代に伝える。ギネスブック認定の大蛇の長さは水害発生日(8月28日)にちなんでいる。中学校では祭りの前に授業で学ぶ。(関川村)

各集落で
胴体づくり

優良
認定

NIPPON 防災資産

災害伝承に関する良質な施設や活動の普及・拡大

公式HPで認定案件を
紹介しています

第1回(令和6年9月5日)は、22件のNIPPON防災資産が認定されました(優良認定11件、認定11件)。ここで紹介したもの以外にも、工夫が詰まった様々な取組が認定されています。公式HPで第1回認定分のパンフレットや、NIPPON防災資産の紹介動画をぜひご覧ください。



公式HPはこちら
(国土交通省)

これからの災害に備える

優良
認定



国内最大級の津波避難タワー

観光資源
を活かす



写真提供：長崎県山川河内自治会

まんじゅう配り

認定

念仏講まんじゅう配り

万延元年(1860年)土砂災害 |
長崎県長崎市 |

1860年5月末の大雨による土石流で33人が亡くなった地域において、月命日に「念仏講まんじゅう」を配って家庭内で災害伝承を継続し、災害リスクを共有。160年以上続く行事。(長崎県・長崎市)

見て知る、学ぶ

洞爺湖有珠火山マイスター

有珠山噴火災害 |
北海道 伊達市・豊浦町・壮瞥町・洞爺湖町 |

「マイスター制度」を創設し、有珠山の噴火の記憶や、災害を軽減する知恵を語り継ぐ取組。「マイスター」が防災リーダーとして、「ユネスコ世界ジオパーク」に認定されている地域の魅力を発信。(洞爺湖有珠山ジオパーク推進協議会)



優良
認定

地域の魅力
を伝える

施設で、現地で災害を語り継ぐ



被災者による語り継ぎ活動(写真提供：広島市)

優良
認定

広島市豪雨災害伝承館

平成26年8月豪雨 | 広島県広島市 |

平成26年8月豪雨災害をはじめとする自然災害からの教訓を伝承する施設。被災者自らがオープンし、地域コミュニティの場として多くの人々が利用した交流館が前身。(広島市・一般社団法人梅林学区復興まちづくり協議会)



鎌原観音堂における語り継ぎ活動(写真提供：婦恋郷土資料館)

優良
認定

婦恋村・天明三年浅間山噴火災害語り継ぎ活動

天明3年浅間山噴火災害 | 群馬県婦恋村 |

1783年浅間山噴火による災害と復興を知ることができる場づくりと200年以上続く語り継ぎの活動。噴火の際に村人の生死を分けた石段が鎌原観音堂にある。(鎌原区・鎌原地区活性化協議会)



写真提供:いのちをつなぐ未来館

災害から未来の命を守るため、『釜石の出来事』を幅広い世代へ

東日本大震災の経験、記憶及び教訓を後世に伝え、防災学習を地域とともに継承及び発展させるための津波伝承施設です。展示室、資料閲覧室、防災学習室などから構成され、避難路追体験や水門・防潮堤見学を含む現地体験や、オンライン語り部のプログラムも提供されています。今後起きる災害に向けて東日本大震災での教訓を活かすべく、積極的に伝承活動を続けています。



展示解説



現地体験の様子(水門見学)



写真提供:いのちをつなぐ未来館
防災ワークショップ(防災リュックの中身を考える)

POINT

工夫のある多様なプログラム

館内無料ガイドに加え、有料の館内語り部、防災リュックワークショップ、安否札作りワークショップ、防災ウォークラリー、防災運動会など、幅広い年代に応じた「楽しく学べる体験型のプログラム」の提供を行い、高い評価によるリピーター増により年々参加者数を伸ばしてきている。震災伝承施設運営者の創意工夫により、市内外に独自の防災教育を発信し、防災意識の向上を図る取組を継続的にやっている点などが特に優れている。(NIPPON防災資産選定委員会)



写真提供：東日本大震災津波伝承館

常駐の解説員、緊迫感ある展示が教訓を伝え続ける

東日本大震災津波の事実と教訓、復興の歩みを伝える施設で、4つのゾーンに被災状況に関する展示があり、震災対応時に使用された災害対策室も移設再現されリアリティが追求されています。また、企画展、地域連携イベント、訪問者のニーズに応じた解説など様々な取組が再訪意欲を喚起しています。この施設が位置する「高田松原津波復興祈念公園」は、「奇跡の一本松」などの震災遺構があるほか、「道の駅高田松原」が三陸訪問の玄関となっています。



写真提供：東日本大震災津波伝承館

常設展示ゾーン



写真提供：東日本大震災津波伝承館

被災した消防車両



写真提供：東日本大震災津波伝承館

学校のニーズに応じた解説も



写真提供：東日本大震災津波伝承館

移設再現された国土交通省東北地方整備局の災害対策室

POINT

現実を再現

被災した実際の消防車両や橋梁、被災の現場を捉えた写真、被災者の証言映像などの記録を通して、事実をリアリティとともに伝え、行動をおこす動機付けにつながる展示を行っている。また、スキルの習熟した解説員を常駐させ、修学旅行、観光旅行、社員研修等、多くの来館者、団体に対して震災の事実や教訓を伝え続けている点などが特に優れている。(NIPPON防災資産選定委員会)



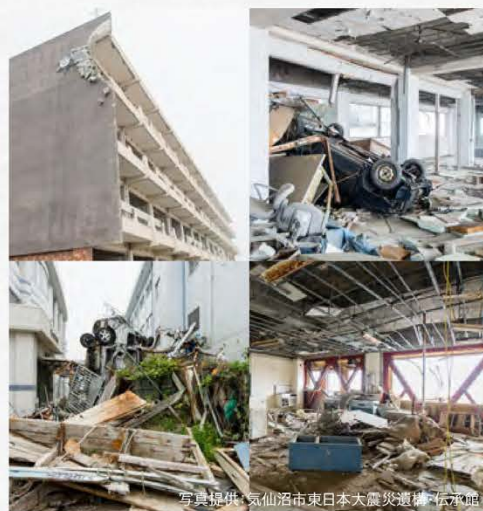
写真提供：気仙沼市東日本大震災遺構・伝承館

「目に見える証」と語り部が人々に警鐘を鳴らす

東日本大震災の津波により、4階まで被災した校舎を震災遺構として保存し、その隣接地に資料館機能を有する「伝承館」が整備された施設で、将来にわたり震災の記憶と教訓を伝えるべく「目に見える証」として人々に警鐘を鳴らしています。施設では、語り部ガイドをはじめとした防災減災体験プログラムを提供しているほか、希望により「ふりかえりワークショップ」も実施され、観光分野との連携も図りながら、震災を「他人事から自分事」に置き換える取組が続いています。



震災遺構と伝承館



強いインパクトの震災遺構

POINT

震災遺構の強いインパクト

被災した気仙沼向洋高校旧校舎を「ありのままの姿（折り重なった車、破壊された校舎等）」で震災遺構として現状保存、公開し、地震や津波の恐ろしさを強いインパクトで伝えている。また、防災減災体験プログラム（語り部ガイド、防災セミナー）により継続的に災害の教訓を伝え続けているとともに、地域の語り部メンバーと協力しながら、地元中高生の語り部ガイド育成に取り組むなど若い世代への継承にも取り組んでいる点などが特に優れている。（NIPPON防災資産選定委員会）



写真提供：気仙沼市東日本大震災遺構・伝承館
毎月11日の月命日近くに「みんな語り部」として中高生がガイドを行う

いわき震災伝承みらい館

東日本大震災 | 福島県 いわき市 |



いわき市(指定管理者:アクティオ株式会社)



写真提供:いわき震災伝承みらい館

「記憶の記録化」と「記録の記憶化」で災害に備える

東日本大震災による未曾有の複合災害(地震、津波、原発事故)の経験を伝えるいわき市の伝承施設です。普段は美しい海岸が一望できるこの施設では、展示や語り部による解説に加え、震災関連資料の収集も行われ「震災アーカイブ」として公開されています。また、発災時の行動を学べる展示や教育機会を通じて、災害への実践的な備えに取り組んでいます。記憶、経験の断絶に伴う危機意識、防災意識の希薄化を防ぐ活動が行われる中で、カムチャッカ半島地震(2025年7月)の際には速やかな避難が行われ、震災の教訓が生かされました。



いわき震災伝承みらい館全景



ウェブサイトで「震災アーカイブ」を公開



写真提供:いわき震災伝承みらい館

津波被災地を巡るガイドツアーの様子



写真提供:いわき震災伝承みらい館

学校等における出張形式の防災教育講話も行われている

POINT

積極的な語り部育成の取組

「いわき語り部の会」と連携して活動し、館内で実施する定期講話に加え、ガイドツアー、出張講話、オンライン講話など多岐にわたる語り部活動を展開している。また、語り部の資質向上のため年2回の研修の実施や若年層を対象とした新たな語り部の発掘など積極的な取組を行っている点などが特に優れている。(NIPPON防災資産選定委員会)



川に親しみ、川を知り、災害から身を守る

天竜川の防災拠点、地域住民の川への理解向上、地域のコミュニティの3つの目的をもった施設で、過去に幾度も水害に見舞われた地区に築かれた大堤防上に位置しています。かわらんべ講座や学校の授業を支援するリクエスト講座、夏の防災イベントにより、川での体験を通して地域の自然を知り、災害の予見や防災の行動に結びつく活動が多様な視点で提供されています。

また、昭和36年に発生した三六災害など過去の水災害に関する資料の収集展示や災害伝承碑の活用など、地域や有識者と連携しながら、過去の災害の教訓を次世代に語り継ぐ取組が進められています。



三六水害の伝承碑が活用されている



ハザードマップによる避難体験



展示の調べ学習



「かわらんべ」全景

POINT

地域を巻き込んで理解を深める

親子で参加し三六災害を伝えていく講座、身近な災害痕跡を巡る防災ウォーキング、災害時の避難生活の模擬体験など、多岐にわたる独自の防災学習プログラムや防災イベントを企画している。水災害の発生しやすい伊那谷の自然、防災に関する知識・備えについて理解を深める多様な活動を、地域を巻き込んだ形で実施している点などが特に優れている。(NIPPON防災資産選定委員会)

写真提供: 天竜川総合学習館 かわらんべ

津波・高潮ステーション

| 室戸台風等の高潮、将来発生が想定される南海トラフ地震による津波 | 大阪府 大阪市 |



大阪府



津波災害体感シアター「ダイナキューブ」

写真提供：大阪府

「見て、聞いて、触って」楽しく学べる、津波・高潮災害への備えの大切さ

国内でも類を見ない、津波・高潮に特化した普及啓発施設です。かつて大阪を襲った高潮災害について、写真や映像を通して伝えるとともに、水門や鉄扉といった高潮防災施設の整備やはたらきについて紹介しています。また、近い将来大阪を襲うといわれている南海トラフ地震や津波について正しい知識を学ぶとともに、地震・津波発生時の対応についても理解を深めることができます。津波災害体感シアター「ダイナキューブ」では、前面・左右側面・床面の4面スクリーンに囲まれた迫力ある映像を通して、津波の恐ろしさを体感できます。



地域の防災訓練やイベント等にブース出展し、防災啓発を実施



「高潮被害トンネル」



「津波・高潮ステーション」外観

POINT

継続的な防災教育の取組

三大台風による過去の高潮被害を伝えるとともに、今後発生が予想される南海トラフ地震での津波災害を体感できる施設となっている。津波・高潮に精通した館内ガイドによる解説を行い来館者に対して災害の事実と教訓を伝えるとともに、学習カリキュラムに含めた校外学習の場として毎年小中学校の団体等を受け入れるなど、継続的な防災教育の取組を実施している点などが特に優れている。(NIPPON防災資産選定委員会)



津波遺構で津波の脅威や記録を体感

東日本大震災により甚大な被害が出た宮古市田老地区の当時の状況を伝えることで、防災意識を高めることを目的として行われている事業。4階より上がほぼ津波発生当時のままの状態に残り、津波遺構として保存された「たろう観光ホテル」の中で、ガイドが解説しながら津波襲来時にそこから撮影された映像を視聴したり、津波の爪痕が残る防潮堤を見学しながら、津波の脅威を感じるプログラム(学ぶ防災ガイド)が行われています。この事業は、防災教育に活用されるとともに、地域の観光事業の一環としても位置付けており、「三陸ジオパーク」の見どころの一つとなっています。



津波遺構の中でガイドが解説



4階まで浸水し破壊された「たろう観光ホテル」が活用されている。

POINT

記憶と教訓を継続的に伝える

津波の痕跡が残る田老の防潮堤や津波遺構「たろう観光ホテル」などを案内する防災ガイド事業を通して、津波災害の記憶と教訓を現地に訪れる人々に伝えている。定期的な研修によりガイドのスキルアップを図っているほか、小学生から大学生までの修学旅行、教育旅行として、多くの学生を受け入れ、地域の重要な防災教育の教材として活用し、継続的な取組として実施している点などが優れている。

(NIPPON防災資産選定委員会)



提供：三条市水防学習館

水害を体験的に知り、自然の恵みと災いの両方に触れる

三条市を襲った二度の大水害（2004年、2011年）の教訓を後世に伝えるため、市民の防災意識の向上を図る拠点として整備された施設です。水害時の写真を展示するだけでなく、浸水の深さを柱に表したり、実際に使用された消防救助作戦の地図などを示すことで、視覚的に被害の大きさがわかるよう工夫されているほか、土のう積みや浸水した車のドアを開くなどの、緊迫感や臨場感のある体験ができます。施設に接する信濃川沿いの交流広場は、人々の憩いの場であるとともに、防災関連のイベントも開催され、災害への備えの必要性和川の豊かな恵みの両方に触れることができる場となっています。



リアリティのある記録写真



防災教育プログラム



浸水深の表示

提供：三条市水防学習館

POINT

体験型施設で防災教育の効果を高める

二度の大水害の教訓を伝えるため、リアリティのある記録や写真の展示のほか、水害降雨再現装置等の体験型の施設を導入し、防災教育の効果を高めている。また、被災者の体験を聞く講座、水没車水圧体験、車ウィンドウ破壊体験など幅広い多様な防災教育プログラムを提供している点などが優れている。（NIPPON防災資産選定委員会）

大垣市輪中館及び大垣市輪中生活館

| 大垣市における水害全般 | 岐阜県 大垣市 |



大垣市教育委員会



提供: 大垣市教育委員会

「川に囲まれた土地の暮らし」を実物を見て知る、学ぶ

木曾三川の揖斐川、長良川を含む15の一級河川が市域を流れる大垣市にあって、水害から生命や財産を守るために作られた「輪中」の成り立ちや歴史、生活や文化を伝える施設です。航空写真やジオラマ、民家の一部を再現した展示で輪中を視覚的に学ぶことができる「輪中館」と、輪中地域の典型的な地主建築の旧家を整備し、輪中民家の当時の暮らしに触れることができる「輪中生活館」において、小学校の学習に合わせた館内解説や、輪中の文化に触れる体験型の講座（箱ずしや水まんじゅうづくりなど）も行われています。また、地域の研究会と連携した講座や輪中巡検で先人の取組を人々に伝えています。

提供: 大垣市教育委員会



輪中生活館外観

提供: 大垣市教育委員会



輪中生活館での体験型講座(水まんじゅうづくり)



提供: 大垣市教育委員会

地域の研究会と連携した輪中巡検

POINT

実際の建物や生活の様子に触れる

輪中地域の実際の建物や当時の生活の様子に触れることで、洪水と戦ってきた地域の歴史や先人の知恵を学ぶことができる。防災教育の一環としても、県内外から多くの学校団体の見学者を受け入れ、治水の歴史と水災害に対する防災の重要性を伝えるとともに、輪中を巡るイベントや体験講座等を通して、輪中地域の生活文化や歴史、先人の取組を学び、後世に伝えていく活動を行っている点などが優れている。(NIPPON防災資産選定委員会)

木曽三川輪中ミュージアム

| 海津市における水害全般 | 岐阜県 海津市 |



海津市



ここにしかない貴重な資料で輪中と治水の歴史を伝える

木曽三川下流域における輪中地域を代表する「高須輪中」の地理的環境、治水の歴史、過去の災害を経て地域に蓄積されてきた水害対策と低地での農業の発展を中心に展示している施設です。明治期に造られ、輪中の中に溜まった水を排水する「金廻四間門樋」（かなまわりしけんもんび）の実物を復元展示しているほか、輪中特有の稲作方法である「堀田」の復元展示など貴重な資料が展示され、専門スタッフによる解説や学習支援が行われています。2024年のリニューアル以降は、ゲーム性のある体験型デジタルコンテンツも導入され、視覚的・直感的に輪中や治水の歴史を学べる工夫も施されています。



木曽三川ストーリーズ(デジタルコンテンツ)



復元堀田で昔ながらの田植えを体験



「低い土地のくらし」(小学5年社会科)の学習において治水の歴史や生活の工夫、水防活動などについて説明を聞く小学生



「金廻四間門樋」の復元展示

POINT

県内外に広く伝える

歴史民俗資料館として開館以降、輪中のなりたちや工夫、河川改修の歴史を、明治時代に築造された木造の樋門など貴重な資料をもとに伝えている。県内外から多くの学校団体の見学を受け入れるとともに、遠隔地の学校に対してオンライン授業を行い、「低い土地のくらし」について、治水の歴史と水災害に対する防災の重要性を伝えている点などが優れている。(NIPPON防災資産選定委員会)

NIPPON 防災資産 学びの視点

災害を語り継ぎ、その教訓を未来に伝えるNIPPON防災資産には大きく3つの学びの視点があります。それぞれの認定案件や各地にある施設や取組を見る時の参考に。

視点①

災害を知る

過去に起きた災害や、その時地域で何が起きたのかを知ることは、防災の第一歩です。多くの認定案件では、災害の大きさや恐ろしさ等の記憶、そこから得られた教訓を語り継ぐ活動に取り組んでいます。



視点②

災害を自分事化

災害を過去の出来事としてではなく、自分や家族、地域に関わる問題として自分事化して捉え直すことが、防災意識を高めることにつながります。小学校低学年等の子供から学べる防災教育にも力を入れている認定案件があります。



視点③

災害に備え行動

災害から学んだ教訓を、実際の備えや行動につなげることが重要です。防災に関する知識・備えを学び、避難場所や避難経路を確認したり、実際に防災訓練に参加できる認定案件もあります。



学びの視点①「災害を知る」認定案件の例 災害の記憶を伝える



写真提供：阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター

阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター (兵庫県)

語り部ボランティアによる講話、気軽に参加できる語り部ワークショップなどで震災の教訓を学べる



写真提供：熊本県

熊本地震 記憶の廻廊 (熊本県)

回廊型のフィールドミュージアムで、被災経験者であるガイドや語り部から展示内容や震災遺構の解説を受けられる



写真提供：気仙沼市東日本大震災遺構・伝承館

気仙沼市東日本大震災遺構・伝承館 (宮城県 気仙沼市)

地元中高生の語り部ガイド育成など、若い世代への継承によって未来の命を守る

何が起きたのかを知り、災害の被害や避難の教訓を学ぶ。施設や活動が連携した学びのつながりも

学びの視点 2

防災・減災のことを調べる、考える



(徳島県 香川県 愛媛県 高知県)

災害に関する言い伝えや体験談などをまとめたイラストマップを活用した学びの場が提供されている



(福島県 いわき市)

発災時の行動を学べる展示や教育機会があり、災害への実践的な備えを知ることができる



(大阪府 大阪市)

津波災害体感シアター「ダイナキューブ」で津波の恐ろしさを体感し、南海トラフ地震や津波の知識を学べる

見て、調べて、考える。それらを続けられる場が維持される

学びの視点 **3**

災害から学んだ教訓を、実際の備えや行動につなげる



(高知県 黒潮町)

浸水区域内の全町民の避難カルテを作成し、それに基づいた避難道や津波避難タワーの建設、避難訓練等の取組を実施



(岩手県 釜石市)

防災リュックワークショップ、安否札作りワークショップなど
楽しく学べる体験型のプログラムで今後に備える



(長野県 飯田市)

ハザードマップを用いた避難体験や避難所生活による
災害避難時の模擬体験など、多面的な防災体験活動を実施

防災教育や研修でどう災害に備えるかを学ぶ

＼ 活 発 な 議 論 、 交 流 ／

「第2回 深化を考える会」開催

第一線で活躍されている認定団体の関係者の皆様による意見交換・議論を通じて、災害による犠牲者を一人でも減らすための視点・要素、既存の取組やこれからの取組へ反映できる気付き等を洗い出し、整理することを目的に、「第2回 深化を考える会」を開催しました。



会場の様子（広島市豪雨災害伝承館 研修室）



意見交換をコーディネート
NIPPON防災資産選定委員会 佐藤翔輔 委員長
（東北大学 災害科学国際研究所 准教授）



行動変容につながるNIPPON防災資産と流域治水の実践的連携 - 地域の防災力向上を目指して

意見1

情報と空間と活動の共有

地域ごとの防災研修・学習、流域のダム等の施設見学、出前講座等において伝承活動を行うことや、防災資産のネットワーク化による認定団体間のノウハウの共有など

意見2

地域住民をはじめとした仲間づくり

損保協会、地方紙等の巻き込み、「マイ・タイムライン」の活用、地域外の人々への周知や浸透、若い人の巻き込みなど活動の担い手を増やしていくことなど

意見3

防災でない観光との連携

観光施設と防災施設を絡めた展開、観光客の取り込み、自治体の観光ツーリズムのコンテンツとして認定施設や流域治水を位置付けるなど（活動の広がり）

意見4

学校等との連携強化

小学校の副読本に紹介されて来場者数が増えた事例、県の建設業協会との連携、大学との今後の連携、防災に対して関心のない層の取り込み、企業研修での活用など

意見5

行動変容につながる工夫

治水施設で防げない災害も起こりうることや繰り返し突発的に起こることを伝えることの大事さや、行動変容には即効薬はなく色々なことをやり続ける必要があることなど

開催概要

日 時

令和8年3月12日(木)

主催者

国土交通省

参加者

第1回「優良認定及び認定」の内、対象災害を水害とする案件関係者（右）、関連する流域治水協議会担当者、NIPPON防災資産選定委員会委員、関係者、Web傍聴者（約120名）

会 場

広島市豪雨災害伝承館 研修室

第1回優良認定参加団体

- ・えちごせきかわ 大したもん蛇まつり
- ・和歌山県土砂災害啓発センター
- ・広島市豪雨災害伝承館

第1回認定参加団体

- ・信濃川大河津資料館を拠点とした地域活性化の取組
- ・福知山市治水記念館
- ・坂町自然災害伝承公園
- ・乙亥会館災害伝承展示室



詳しくはこちらへ
（国土交通省）



NIPPON防災資産の情報発信



最新情報は
公式HPへ

公式ホームページ(国土交通省水管理・国土保全局)では、各認定案件の取組や関連情報へのリンクを掲載しています。また、NIPPON防災資産の趣旨を伝える紹介動画、認定案件で災害伝承に取り組む人々へのインタビューも掲載しています。



第1回認定分のパンフレットもご覧いただけます。



YouTube
動画



インタビュー
記事も



公式HPはこちら
(国土交通省)



インタビュー記事等
(カワナビvol.18)



NIPPON防災資産サポートセンター

国による「NIPPON防災資産」の取組を支援・補完することを目的に、「災害の自分事化協議会事務局」を務める一般財団法人国土技術研究センターにおいて「NIPPON防災資産サポートセンター」を設置しております。NIPPON防災資産の取組に磨きをかけ深化するための支援や普及に係る支援を行っておりますので、問合せなどはこちらのフォームからご連絡ください。



NIPPON 防災資産

発行：2026年9月

作成：内閣府政策統括官(防災担当)付

参事官(普及・防災教育・NPOボランティア連携担当)付

〒107-0052 東京都港区赤坂2-4-6 赤坂グリーンクロス18階

代表:03-5253-2111 直通:03-5797-7922

国土交通省水管理・国土保全局 河川計画課

〒100-8918 東京都千代田区霞が関2-1-3

代表:03-5253-8111 直通:03-5253-8443



NIPPON
防災資産HP
(国土交通省)



NIPPON
防災資産
紹介動画



NIPPON
防災資産
特集記事



全国流域
治水MAP
 流域治水



流域治水
オフィシャル
サポーター制度



火山防災
協議会